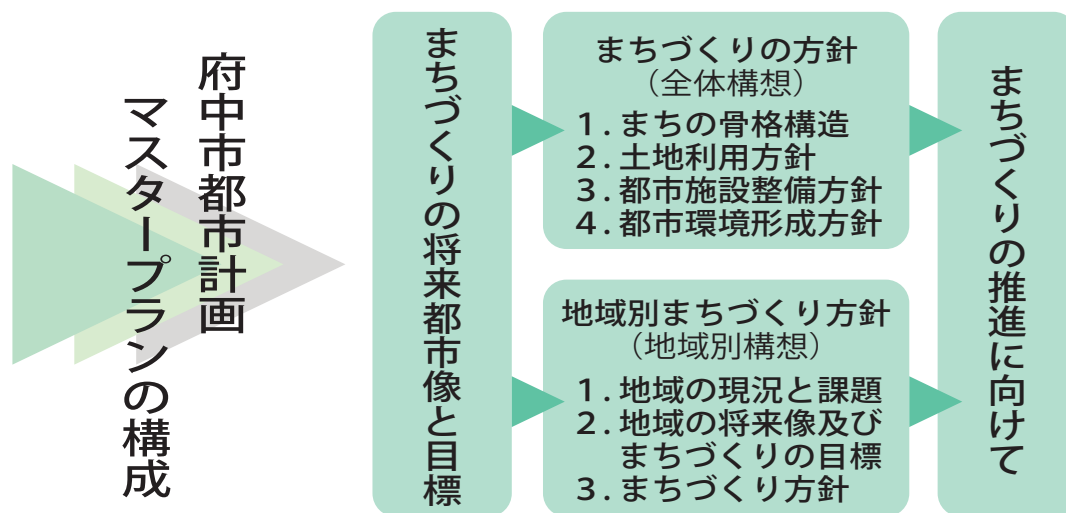


4 府中市の都市計画

「都市計画に関する基本的な方針」とは、地域固有の自然や歴史、生活文化、産業等の特性を踏まえつつ、創意工夫のもと、まちづくりの具体的な将来ビジョンを示すものである。今後、市町村が都市計画によるまちづくりを展開するうえでの重要な指針となるものである。「府中市都市計画に関する基本的な方針（以下「府中市都市計画マスタープラン」）」は、「第6次府中市総合計画」及び「府中市都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」といった上位計画に則しつつ、将来のまちづくりの方向性を示す基本計画として位置づけられている。また、府中市都市計画マスタープランでは、「まちづくりの将来都市像と目標」、「まちづくり方針（全体構想）」、「地域別まちづくり方針（地域別構想）」、「まちづくりの推進に向けて」を構成内容としている。



市では、市民から多くの意見や提案を募り、市全体の将来のまちづくり方針として、府中市都市計画マスタープランのまちづくり方針を2002年（平成14）10月に策定した。また、地域別まちづくり方針については、平成18年度より検討を始め、地域別まちづくり方針を追加した府中市都市計画マスタープランを2010年（平成22）1月に改定した。この府中市都市計画マスタープランは、府中市ホームページから閲覧することができる。また、市役所3階市政情報公開室・7階計画課、市政情報センター、中央・各地区図書館、スクエア21・女性センターでも閲覧することができる。

課題

- ① 府中市ホームページから「府中市都市計画マスタープラン」を探してみよう。
- ② 府中市にとってどのようなまちづくりが望ましいか、グループで話し合おう。

5 地域調査と発表

私たちの住む府中市は、古い歴史の中に新しいまちづくりが進められている伝統と発展の地域である。私たちが暮らしているこの郷土に誇りがもてるよう、府中市を理解することが大切である。また、私たちはこの府中市に住み、生活をしている府中市の一員でもある。府中市のよさや課題を見だし、地域社会づくりに参画し、その発展に役立つ努力をしていくことも大切である。このような意識をもって自分の家や学校周辺を改めて見てみよう。

(1) 地域診断を行い、その結果をまとめて地域の特色をつかもう

地域を調査するといっても様々な視点がある。地域調査を始めるに当たっては、まず地域を調べるテーマを決めなければならない。テーマを決める際には、対象となっている地域の地理的事象に注目しながら吟味して決めることが必要である。

そこで、対象となる地域をおおまかに見て回り、地域で生活する中で気付いたことや地域を歩いていて発見したことをもとに地域診断を行うとよい。地域診断の方法は、登下校中に地域の様子を観察し、地域の特色や課題を個人で整理する。

府中第五中学校周辺の地域を例に地域診断を行い、まとめた結果は次のとおりである。

地域診断で出された地域の特色や課題（個人）

府中第五中学校 周辺の地域の特色	・緑が多い ・歴史がある ・にぎやかなところ ・施設が整っている ・自然が多い ・遊べるところが多い ・公園が多い ・祭りが多く ・大きな企業がある
府中第五中学校 周辺の地域の課題	・暗がりが多い ・道がせまい ・ごみが多い ・カーブミラーが少ない

地域診断の結果のまとめ（多かったもの）

府中第五中学校 周辺の地域の特色	・緑が多い
府中第五中学校 周辺の地域の課題	・せまい道が多い

(2) 地域の特色をもとに疑問点と仮説を考え、仮説を確かめる方法を話し合おう

地域診断の結果をまとめたものが、今回の地域調査のテーマとなる。地域を調査する際のテーマが決まったら、テーマに則して疑問点を考え、その理由となる仮説を立てよう。疑問点に対する解答を考え、それを仮説としていく。個人で予想し、グループで話し合うなど、様々な手順を取りながら進めるとよい。また、考える際には日常生活での経験やこれまで地理的分野で学習してきた見方や考え方を活用しよう。

設定したテーマに対する仮説を立てたら、次に調べる方法を考える。考えた疑問点に対して調べる方法は異なるので、どのような調査方法が有効かを吟味することが重要である。

調査方法には様々な手法があるので、疑問点に合った調査方法を次に示す調査方法例を参考にしながらグループで話し合ってみよう。

設定したテーマ

府中第五中学校周辺の地域は緑が多い

設定したテーマに対する疑問点と仮説

疑問点	疑問点に対する仮説	調査方法
なぜ、緑が多いのか	・最近、植えたところは、市長がお願いした。 ・昔の人が植えたところは、源義家(武士)が頼んだ。	・図書館で調べる。 ・府中市のホームページで調べる。 ・市役所で聞く。
いつから、緑が多いのか	・最近、植えられたところ(道路わき)もあるが、昔、植えられたところ(大國魂神社など)もある。	・図書館で調べる。 ・昔の地図を見る。 ・昔から地域に暮らしている人に聞く。
地域のどこに、緑が多いのか	・浅間山や府中の森などの公園に多い。 ・団地の中や大きな道路わきに多い。 ・東京農工大学などの学校に多い。 ・京王線の府中駅周辺に多い。	・調べに行く。 ・インターネットで調べる。
どのような、緑が多いのか	・大きな樹木などが多い。 ・畑などの農地や森林はあまりない。	・調べに行く。

<様々な調査方法例>

資料の活用	文献を活用した調査、統計資料を活用した調査、地形図を活用した調査、空中写真や景観写真を活用した調査など
野外活動	野外観察、聞き取り調査、写真や動画を実際に撮っての観察など

(3) 野外調査〔フィールドワーク〕に出かけよう

グループで決めたテーマの仮説が実際に正しいかどうか、野外調査を行い、確認する。野外調査をする場合には、自分たちが観察していただくこと、地域の人に聞き取り調査をすることを組み合わせながら効率よく進めていくことが望ましい。また野外調査の準備として、観察で回るルートを決め、それを記入する「ルートマップ」や観察や聞き取りの分担表、結果を記録する「野外観察ワークシート」を準備しておくとうい。

◎調べてみて分かったこと・考えたこと



- ・民家の庭などにも緑が多く見られた。
- ・府中市は人口が多く、住宅地がたくさんあるので緑を多くしたのではないかと考えた。
- ・府中市には、田んぼや畑の緑よりも人が植えた木の方が多いということが分かった。

(4) 地域調査では分からなかったことやさらなる疑問点を整理しよう

地域を実際に歩いて調査すると様々なことが具体的に見えてくるが、その反面、さらなる疑問も出てくる。その疑問を整理して、さらに調査を進めていく。府中第五中学校の生徒は、次のような疑問がわいたようである。

◎地域調査では分からなかったことやさらなる疑問

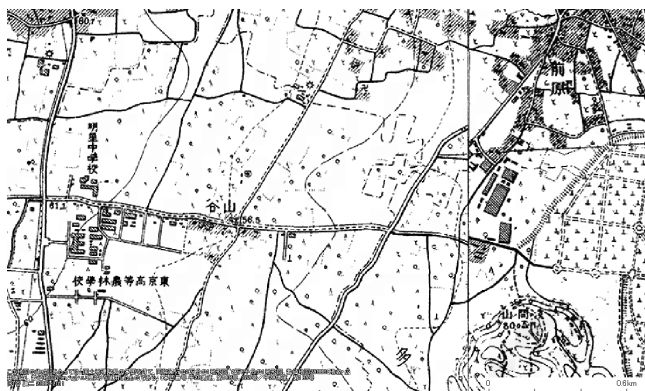
- ・府中市の緑は、いつごろから緑が多いのだろうか。
- ・府中市の緑は、どのようなところに多いのだろうか。
- ・府中は、なぜ緑が多いのだろうか。

これらの疑問を調べる方法

- ・新旧の地形図を見比べる
- ・空中写真を使って調べる
- ・市役所に行って調べる

(5) 新旧の地形図を比べて調査しよう

野外観察だけでなく資料を活用して調べることも有効な手段である。中でも地形図は、その時々土地の様子についての情報が詳しく載せられているので、そこから様々なことを読み取ることができる。また、新旧の地形図を比較することによって、その変化も読み取ることができる。



戦後すぐの府中第五中学校周辺



現在の府中第五中学校周辺

◎新旧の地形図を比べて分かったこと



- ・昔は畑ばかりで家が少なかった。現在になるにつれ、住宅がどんどん増えて田や畑が少なくなった。
- ・現在は道が真っすぐになり、昔に比べて広い道が増えた。
- ・戦後からまちの様子ががらっと変わり、家などがたくさんできたということが分かった。
- ・学園通りや小金井街道、府中街道は昔から同じところにあった。
- ・学園通りの郵便局付近は、昔から栄えていた。

(6) 空中写真を使って、空からまちを見てみよう

地形図だけでなく、空中写真を使って実際に空から見たまちの様子を観察してみることがも有効な地域の調査方法である。本書『郷土府中』の中には、府中市全域の空中写真が掲載されているので、それを見ながら地域の特色を調べてみる。またインターネットを活用し、地域の空中の様子を自在に見ることができる。空中写真と地形図とを比較してみることもよい方法である。

◎空中写真を見て分かったこと



- ・全体的に緑が多かった。
- ・府中市は住宅地が広がり、また学校には緑が多いことが分かった。
- ・住宅がないところに緑が多いことが分かった。
- ・家が多いということは人も多いということなので、学校も多いのだろうと考えた。
- ・ところどころに畑のようなものが見られた。

(7) 資料を集めて調査しよう

地域調査をする上で有効な資料は、地形図の他にも様々なものがある。その中で、統計資料は地域の実態を客観的、数値的にとらえられる資料である。図書館やインターネットなどで容易に入手できるものも多いので、テーマに沿った統計資料を集めてみよう。また、府中市で作成しているパンフレットなども地域を知る上で多くの情報が得られる。府中第五中学校の生徒は府中市ホームページから「府中市緑の基本計画2009」があることを知り、調べてみた。

「府中市緑の基本計画2009」とは・・・

「緑の基本計画」は、公園・緑道などの公共施設から住宅地・工場などの民間施設の緑も含めた地域全体の「緑の将来像」を描き、この実現のために、多くの取組を体系的に位置づけた緑の総合的な計画です。

府中市では、1999年（平成11）に「府中市緑の基本計画」を策定し、様々な施策を進めてきましたが、地球規模で進む環境の変化や市民ニーズの多様化など、緑に求められる役割の変化や新たな課題に対応し、引き続き本市における緑に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、「府中市緑の基本計画2009」を策定しました。

調べてみて分かったことや感じたこと



- ・府中市では、緑を増やすために様々な計画を立てているということが分かった。
- ・緑を増やして、よりよいまちをつくらうとしていることが分かった。今ある緑を残したまま、さらに緑を増やし、10年後には緑被率を30%にすることを目指しているということが分かった。
- ・府中市が今行っている緑を増やすことで、よりよい地域をつくっていかうとする努力はとても素晴らしいことだなと感じた。

(8) 調べた結果を整理してまとめよう

ここからは、これまでの調査の結果を地域の特色としてまとめる段階に入る。まとめる際には地域の特色だけでなく、そこから見いだした地域の課題やその解決策も考察していくことが重要である。また、考察する際には将来の世代のことも意識するようにする。

まず、これまで進めてきた調査の結果をまとめよう。まとめ方はレポートや模造紙にまとめるなどの方法がある。そして、まとめたものをもとに発表会を行い、互いの成果を共有していく。さらに、今回の地域調査における成果や課題をグループで明確にし、今後の社会科の学習や普段の生活の中で引き続き追究していくことが重要である。

身近な地域の緑を調査して分かったこと

疑問点	疑問点を調べて分かったこと
なぜ、緑が多いのか	○府中市では、地球規模で進む環境の変化や市民ニーズの多様化など、緑に求められる役割の変化や新たな課題に対応し、水や緑の整備を進めている。
いつから、緑が多いのか	○かつては田や畑など農地としての緑がその中心であったが、1950年代後半頃から住宅が増え、住宅や道路の周りに整備された緑が増えた。
地域のどこに、緑が多いのか	○大きな道路の横や住宅の周り、学校や施設の周りなどに多くみられた。
どのような、緑が多いのか	○畑や田んぼのような農地ではなく、道路わきの街路樹や住宅の周りなどにある整備された緑が多い。

調べて分かったことから導いた結論

学校の周りで見られる緑は、昔からある農地などの緑ではなく、住宅が増加する中でよりよい地域をつくっていくために整備された緑が中心である。

(9) よりよい地域づくりを目指して

まとめたものをもとに、よりよい地域をつくっていくにはどうしたらよいかを考えてみよう。考える際には、「私たち中学生にできること」「家族や地域の大人に協力してもらってできること」「市役所や公的機関の力を借りてできること」といったように実行できる段階に分けて考えてみるとよい。